

コメント



高橋 愛典 (近畿大学経営学部)

1. 図書館のお立場(天野さん)

- 本のオープンアクセス・・・デジタルコレクション、リポジトリ、
グーグルブックスと何がどう違う？
- 需要の価格弾力性(お値段がいくらであっても、買う人は
買うし買わない人は買わない)・・・だったら無料は有り難
いが、コスト(編集・印刷)を誰がどう負担するか？、どうせ
著者に印税は入らない、無料かつ紙だと積ん読(とゴミ)が
増えるだけ、電子書籍でオープンアクセスだと本当は読ん
でくれるか？→紙の本が有り難いと思う私は、結局、ブッ
クオンデマンドが有り難い？(印刷代は払うからさあ...)

2. 研究者のお立場（標葉さん）

- 趣味が論文や本を書くこと・・・気力体力の低下をどう補う？
- イノベーションガバナンス・・・某国立大学の「産業経営研究所」が「イノベーション研究センター」に改組されたときの違和感を思い出してしまった→建前をどう「いなす」か？
- 研究のローコスト体制を維持する戦略・・・研究を趣味と考えておけば、助成が取れなくても諦めがつくか？私はもう海外で読まれなくてもいいという諦めはついているが...
- 標葉さんのような方にこそ、日本語でこそ、どんどん（新書とか）書いてほしいのですが...？

3. 出版社(者)の立場(飯澤さん)

- 物理のポスドクをしながら出版(社)の兼業！
- 飯田一史『町の本屋はいかにしてつぶれてきたか』(平凡社新書)を思い出す・・・小売だけでなく出版流通の通史
- 科研費・・・今回期せずして取れてしまったが、その成果は紀要に乗せるのがOAの点では無難っぽい、本にしたければまた科研費で出版助成を取るのが王道だろうか...？
- 「自分でOA出版」・・・明後日の京都での研究会が続篇？
- 日本のエコシステム(ガラパゴスであろうが...)を活かすにはどうすればよいか？、どう地道に「微調整」していくか？

というわけで(?)盛り上がりましょう!

